

学校給食・食育分科会

I 研究のあゆみ

4月24日（木）	2025年度名教組教研オリエンテーション （2025年度名教組教育研究活動の進め方）	【教育館】
5月～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月25日（金）	研究内容の検討（研究のまとめ方）	【守山特別支援学校】
8月22日（金）	市集会発表内容の検討（リハーサル）	【守山特別支援学校】
9月20日（土）	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

今年度、学校給食・食育分科会では、「生産者への感謝の心」「食事のマナー」「食品ロス」等をテーマとした実践が3本報告された。

子どもたちの食への興味・関心を高める手立てや、子どもたちが食に関する課題を自分事として捉えられるような手立て、子どもたちが主体的に課題解決に向けて学習できるように工夫された手立てなど、ICTの活用だけでなく、体験活動を効果的に取り入れた食に関する指導が行われていた。

また、ゲストティーチャーの活用や保護者との連携を取り入れることで、学びを深める取り組みも見られた。意見交流では、「ゲストティーチャーの活用や多様な教職員が授業に関わるよさについて」をテーマに、参加者が校内で実践した例を紹介し合い、教員や栄養教諭だけでなく他の教職員が授業に関わることや、ゲストティーチャーとして専門家から実際に話を聞くことを通して、学習が一層豊かになることが確認された。

※ 本分科会は、「学校事務分科会」と合同で開催しました。

III 今後に残された課題

- 実践を広めたり、保護者との連携を図ったりして、より効果的な学習を進めていくためにも、児童が自分の食生活の中から、課題を設定する場面を増やすことが求められる。
- これまでより、さらなる広がりや深まりのある学習にするために、ICTの活用だけでなく、子どもたちが本物にふれる体験活動や、多様な人との関わりを取り入れることが効果的である。
- 更なる食育の充実に向け、教科横断的なカリキュラムマネジメントの視点で活動することが望まれる。